

◆ 長谷川 權 選

分け入れば地球の匂ひ夏の草

(東村山市) 内海 亨

帰省して家中手摺ばかりなり

(横浜市) 我妻 幸男

戦ひは全て終りぬ夕焼空

(東京都目黒区) 矢野美与子

空気にも微生えるらし五月闇

(大津市) 星野 暁

万緑や八十にして無為自然

(八王子市) 額田 浩文

涼しげに水音たてて鯉集ふ

(横浜市) 沼宮内 薫

フェルメール色にやすらふ額の花

(川崎市) 古田 昇

熊野山全てが樹林夏木立

(新宮市) 中西 洋

これしきで人は変はらし更衣

(太田市) 吉部 修一

茄子漬一本のみの昼の飯

(日進市) 松山 眞

【評】一席。夏草の茂る匂い、あれは地球の匂いだったのだ。ときどき忘れてしまふ。二席。みな年老いてしまった。今浦島の嘆き。三席。「佐藤愛子さん死去」とある。その著「戦いすんで日が暮れて」。十句目。簡潔な夏の生活へのあこがれ。

◆ 大 串 章 選

夏帽子似合ふ嬸の庭仕事

(横浜市) 河野喜多子

雷鳴に生れたての子反応す

(前橋市) 荻原 葉月

庭花の順に咲き継ぎ夏至となる

(伊丹市) 保理江順子

この世への点滴のいと滴れり

(相模原市) 渡辺 一充

逆縁の百九歳や梅雨寒し

(東京都杉並区) 伊東 澄子

空広し水の地球の植田かな

(加古川市) 森木 史子

父の日や被爆体験語る父

(大村市) 小谷 一夫

七夕や短冊に書く先師の句

(野田市) 塩野谷慎吾

七夕のおとぎ話を聞く目かな

(福知山市) 森井 敏行

短夜の静寂に遠く救急車

(尾道市) 村上紀代子

【評】第1句。庭仕事に励む嬸。「夏帽子似合ふ」が明るく健やか。第2句。生まれて初めて聞いた雷鳴。赤子はどんな反応を示したのだろうか。第3句。この庭には春から夏至までいろいろな花が咲き続けるのだ。「順に咲き継ぎ」がリアルで良い。